

# 地域薬局における「女性の健康サポート」 地域に根差した薬局の中長期的な価値創出

木須薬局駅前店の取組みからの考察

今年3月、「薬局経営は共感の時代に」をテーマに開催された第8回「class A フェスタ」（クラスAネットワーク主催）では、「ヘルシーウーマンプロジェクト活動報告」が披露された。国際女性デーを背景に、昨年（2024年）3月に立ち上げられた同「ヘルシーウーマンプロジェクト」。地域薬局が「女性の健康」にどうアプローチできるのか。薬局の価値提供にどう寄与するのか。地域に向けた薬局サービスの差別化が模索される中で取組みに注目したい。プロジェクトメンバーで木須薬局駅前店（横浜市旭区）の薬剤師・宮坂愛美海さんに伺った。

## 「女性の健康サポート」 薬局薬剤師キャリアの強みに

大学を卒業し、昨年（2024年）の春から木須薬局駅前店でキャリアをスタートさせた宮坂さん。薬局薬剤師として何か「強みになること」に取り組んでほしいという木須調剤薬局の松原幸三代表の意向もあって、ちょうど立ち上がった「ヘルシーウーマンプロジェクト」のメンバーに加入、毎月のセミナー研修などに参加してきた。

ただ、プロジェクトメンバーの間では、「薬局は相談できる場所として理解されていない」「薬局は薬をもらうところとしか思われていない」という意見が多いようで、女性の健康サポートを実践していく上ではハードルが高い。

## 母親から娘に、家で話すきっかけづくり

宮坂さんは、取組みに気づいてもらうことがまずは重要と考え、店舗内の目に留まるところにチラシを貼って啓蒙を図る。内容は娘さんの健康問題について、母親世代に向けた情報だ。月経周期とホルモンバランスなど、「家で話すきっかけにしたい」というもの。

当初は「更年期」をテーマにと考えていたようだが、メンバーから「患者さんの立場だったら、（まだ経験のない）若い人に相談したくないのでは」といった声があり、ダイエット関連からスタートしたという。

「ただ、チラシでの情報提供なら年の差は関係ないですし、薬局には知識も経験もある多様な年代のスタッフがいますから、連携して応えられるのではと思っています」

## 「今後も相談したいときは、あなたに声をかけるわね」

実際、今年（2025年）3月8日の国際女性デーに合わせてイベント（ミニセミナー）を行ったところ、後日処方箋なしで来局した中高年女性がOTCを購入しながら、「今後も相談したいときは、あなたに声をかけるわね」と、うれしい言葉をかけてくれたという。

「薬局薬剤師として、お薬を渡すだけでなく、お薬そのもの以外のことでも相談していただけるのは薬剤師冥利につきます」

👉 次頁につづく



宮坂愛美海さん（木須薬局駅前店）

ミニセミナーのテーマは「女性ホルモンと骨粗鬆症」。資料も用意し、クイズ形式で楽しみながら関心を高めてもらったそうだ。

女性の健康サポートでのチラシ情報やイベント開催は、相談できる（しやすい）薬局、入りやすい薬局、物販につながる、（近隣競合する中で）差別化、知ってもらうきっかけづくりになると手応えを得た様子。

### 共有価値の創造、中長期的な価値創出

「class Aフェスタの講演でも“共感”の話がありましたが、ライフステージにおける女性の健康サポートを通じた信頼関係から、口コミで周囲につながる可能性があります。お一人のお客様からご友人やご家族様に伝わって木須に来局していただくというように。また、もしそのお客様が在宅サービスを受けられるようになったとき、木須を希望していただければ、生涯にわたって関係性が続くということもあり得ると思います」と述べるのは松原代表。

女性の健康サポートは薬剤師の専門性との整合性、薬局の収益性などの面からは二の足を踏む取組みと捉えられがちだ。しかしながら、CSV（共通価値の創造）や地域に根差した薬局という中長期的な価値創出という意味では、また宮坂さんの話にもあ

るように「薬以外で感謝される」という関係づくりにおいては、薬局事業との親和性は十分にあると言えるのではないだろうか。

文 = 石川良昭 資料 = 木須調剤薬局



3月8日の国際女性デーに合わせて開催したミニセミナーでは、「女性ホルモンと骨粗鬆症」の話をクイズ形式で行った



相鉄本線・希望ヶ丘駅前にある木須薬局駅前店

### 女性ホルモンに関する問題

○×クイズ

Q1. 女性ホルモンが多いと、骨が弱くなりやすい

○ or ×

### 女性ホルモンに関する問題

答え

○×クイズ

Q1. 女性ホルモンが多いと、骨が弱くなりやすい

答え：×

女性ホルモン(エストロゲン)には骨を丈夫にする働きがあります。

閉経後、女性ホルモンが減ると骨量も低下し、骨折リスクが上がります。